



波 濤

<http://hatoh.net/>

第 55 号

発行 放送大学神奈川同窓会
編集委員会
責任者 佐栞 慎二
発行日 平成30年7月14日
会員数 605名(平成30年4月1日現在)

放送大学で学んだ誇りと感謝

会長 佐栞慎二



放送大学は放送を通じて高等教育を提供することを目的として1983年に設立されました。それから35年が過ぎて人生100年時代を迎え、リベラルアーツを幅広く学ぶ教養学部から修士・博士課程を備えた生涯学習の最高学府になりました。幕末の儒学者の佐藤一斎が学び続けることの大切さを、「少くして学べば即ち^{わか}壯にして為すことあり。壯にして学べば即ち老いて衰えず。老にして学べば即ち死して朽ちず」と説いています。放送大学では少・壯・老がそれぞれの目標をもって学び、また全国に配置された学習センターでは先生方から直接お教え頂くとともに、多彩な学友との交流を深めることが出来ます。

神奈川同窓会は2018年4月に新たに29人の会員を迎え、会員数は605人となりました。神奈川学習

センターは独立のキャンパスと充実した客員教授陣や職員を擁し、我々はこの恵まれた環境の中で、学ぶことの大切さと喜びとともに同じ目的を持った仲間がいることを知りました。神奈川同窓会は、3つの基本理念「放送大学で学んだことの誇りと感謝の気持ちをもって、同窓生としての絆を強め、母校の発展に協力すると共に、社会貢献活動を推進する」を掲げて今年度も活動を続けます。

なお本年5月私は放送大学同窓会連合会の会長に就任しました。全国51か所の同窓会は1万2千人強の会員を擁しそれぞれに活発な活動を展開しています。一方大学本部は放送大学新時代と銘打って、学びの場への学生や卒業生の参画(共創)、学習センター機能の強化を打ち出しています。同窓会連合会は各同窓会の活動を支援し、また大学本部と情報交換を密にして各同窓会に伝達し協力関係を構築する役割があります。こうした連合会の活動は神奈川同窓会と母校神奈川学習センターの発展のために還元できるものと思いますので、ご支援ご協力のほど宜しくお願いします。

第29回通常総会

2018年5月18日(金)神奈川同窓会第29回通常総会が開催されました。会員総数598名、出席者43名、委任状提出者284名、総数327名で総会は成立。提出された6議案が審議され、第6号議案「会則改定(案)」の一部修正はありましたがその他は原案通り承認されました。

佐栞会長より「2年後には神奈川同窓会創立30周年の節目を迎える事と、今年度は全国51か所の同窓会連合会の会長に就任するため全国同窓会との情報交換を密にし、新役員体制で同窓会活動を一層活発に行います」との挨拶がありました。

総会后、有馬客員教授による「 Gondwana大陸の誕生を探る」の演題で、地質学の興味尽きない講演を頂きました。懇親会には、センターから福富所長と新任の河内事務長、そして有馬客員教授のご参加を頂き連携を深め、会員皆さまとの和やかな交流の内に終了しました。(浅井公子)



有馬 眞先生特別講演会

演題： Gondwana大陸の誕生を探る ー ナミブ砂漠の地質調査ー

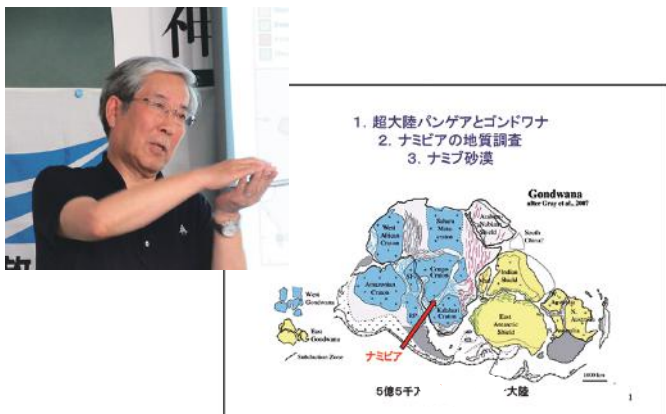
第 29 回神奈川同窓会通常総会に引き続き、有馬眞先生（横浜国立大学名誉教授／放送大学客員教授）に特別講演会をお願いし開催、約 100 名の参加者で教室が埋まりました。

気象学者ヴェーゲナーは 1915 年、著書『大陸と海洋の起源』で巨大大陸「パンゲア」と「大陸移動説」を提唱したが当時は受け入れられず、後世になって認められたそうです。現在の世界地図をジグソーパズルのように組み合わせると、一つの巨大大陸の原型ができワクワクしたことを思い出します。Gondwana大陸にユーラメリカ、シベリアなどの地塊が次々に衝突・集合し約 3 億 5000 万年前に巨大な超大陸パンゲアが成立し、その後分裂とのこと。（現在でも大陸は年 5cm 位移動中）

次に有馬先生のナミビア地質調査の状況をスライドで紹介がありました。沈降・隆起を繰り返す南西アフリカの山脈およびオレンジ川流域の地質調査で、石炭紀の氷礫岩、ダマラ帯の角閃岩帯の調査等、長距離徒歩は苦難の連続。

最後にナミブ砂漠の自然史の紹介です。気象・海象および大陸隆起等の影響により、帯状に浸食されている様子がドローン撮影により鳥瞰図のように判ります。さて植物は殆ど雨の降らない砂漠で、どうやって水分を摂取しているのでしょうか？答えは海霧により補充している様子です。

数十億年壮大な地球の営みを紹介され、ほのぼのとした気持ちになります。それにしても百万年単位になると、時間軸をどのように考えるべきか私にはスケールがありません。（金田保男）



サークル成果発表会

2月17日（土）各サークルの発表会が行われ、神奈川同窓会は Plan International Japan の海藤淳子氏による「ネパール地震からの復興とチャイルド達の暮らし」と題し講演を行いました。

ネパールについての全般的な説明の後、地震被害のひどかった 2 地区の被害状況が示され、Plan International Japan が支援して 2 年経過して復興した仮設校舎での子ども達の勉強ぶり、障害のある子ども達に配慮してスロープがつけられた廊下、小さい子ども達にも使えるように高低差を付けて作られた手洗い場などの写真が紹介されました。

さらに私達が支援している 5 人のチャイルドのうちネパールに住んでいる SUNITA さんと、その地域の様子も紹介されました。（石橋正彦）



卒業生の集い・祝賀茶話会

3月17日（土）学習センターで「卒業生の集い」と「祝賀茶話会」が行われました。今回の卒業・修了生は 241 名、そのうち出席者は 59 名。式典に先立ち同窓会より恒例の桜茶が振る舞われ「集い」ではまず福富所長から祝辞があり、教養の大切さを説いた湯川秀樹博士の言葉を餞として贈られました。続いて同窓会佐業会長が祝辞に立ち、江戸の儒学者、佐藤一斎の言葉を引いて、生涯学習の必要性を話され、11 名の客員教授からも個性豊かなお祝いの言葉がありました。

その後、優秀学生として吉本佳子さん、高齢者として石田清一さんが表彰され、石田さんが挨拶し、自己の学習体験に基づいた感動的な話をされました。次に、今回名誉学生となられた石井一朗、穴戸修一、高橋照夫、寺村紀美夫、桑原昭夫の各氏が紹介され挨拶されました。全員の記念撮影があり、休憩をばさんで学歌斉唱の練習が行われ「集い」は終了、「祝

賀茶話会」に移りました。5卓のテーブルには同窓会心尽しのお花と茶菓子が備えられ、和やかな雰囲気の中で交歓が行われました。各自一口コメントで卒業の喜びと学習体験を語り、学ぶことの楽しさと喜びを実感した茶話会でした。(澤村雅嗣)



学位記授与式・祝賀パーティ

3月24日(土)全国の学習センターから卒業生・修了生が集い、11時から学位記授与式がNHKホールで挙行されました。今年就任された來生新(きすぎしん)学長から学位記が授与され、本年度の卒業生・修了生は、6,036名の多きにのびったこと、また開学以来卒業生が10万人を突破したことが報告されました。今回の授与式では放送大学が設けた博士課程初の8名の修了が、特筆すべき出来事でした。

式典終了後の祝賀パーティの会場は、昨年引き続き「ハイアットリージェンシー東京」で行われました。出席者は卒業生447名を含め612名、神奈川学習センターからは卒業生52名、修了生4名の参加で全国最多でした。

祝賀パーティは、南関東を中心に18の学習センターの同窓会からなる80名の実行委員で運営されました。神奈川からは18名が協力し、主にホテルへのバス誘導と銘酒コーナーを担当しました。最後に佐葉実行委員長が閉会の言葉を述べ、盛大な中にも滞りなく式典が終了しました。(永井藤樹)



卒業生の言葉

無事の航海

前原俊浩



やっと仕事から解放された丁度5年前の平成25年4月に全科履修生として入学しました。退職後の第二の人生は「粗大ゴミや産業廃棄物」「濡れ落ち葉」にだけはなりたくないと考えて

きました。

放送大学の存在は向かいにある南区スポーツセンターに通っていたのでよく知っていました。現役時代は身体を動かす趣味ばかりでしたので、少しは頭も働かせるようにと放送大学に入学しました。また中断していた水彩画のクラブにも入会して長い第二の人生をスタートしました。幸い自宅から学習センターまで近く徒歩でも通学可能でしたので、図書室をよく利用させていただきました。怠け者の私には自宅よりも図書室の緊張感が丁度よく時々居眠りをしながらも集中することができました。

卒業は考えていなかったのですが単位にこだわらず、興味のある科目だけを図書室の本も参考にしながらゆっくり学びを楽しみました。気が付くと放送大学への通学が新しい生活のリズムになっていました。

入学と同時にサークル「放友会」にも入会しました。放友会でのよき先輩、よき仲間との交流が学びを継続する大きな力になってくれました。特にサークルの皆さんが次々と卒業されることに刺激を受け、徐々に私も仲間入りできればと思うようになり、後半は卒業に向け履修科目を増やし何とか卒業できました。「運動」や「食」に関する科目も履修したことにより、これまで長く続けてきたテニスやマラソンのトレーニングを見直す機会にもなり思わぬ学習効果が得られました。少しでも長くスポーツを楽しみたいと思っています。

何よりこの5年間で「学ぶたのしみ」「知るよろこび」を体験できたことにより、興味を覚え、興味をかき立てられる世界が大きく広がりました。放送大学入学と共に出航した私の「第二の人生丸」は何とか無事航海できて、産業廃棄物にはならず済んだようです。再入学をして今しばらく学びをたのしむ放送大学生でいたいと思っています。

卒業生の言葉

知ることの喜び

木戸 光 (みつ)



8年前、神奈川新聞に「83歳の偉業」と大きな見出しがありました。「こんな年配の方が勉強を続け、卒業されたとは！」その時の私の驚きです。私も・・・と放送大学へ電話し、半年待つて平成22年に選科生で入学しました。

先ず申請したのは「日本近現代史」と「高齢期を支える社会福祉システム」です。日本の近現代史は私の最も不得意とする分野です。高校で日本史は学びましたが、縄文時代、弥生時代から丁寧に始まる講義は、明治時代が終わる辺りで時間切れになって、あとは各自で勉強をとという状態でした。系統立てて勉強することもなかった私にとって、日本の近現代史についての知識は全くお粗末なものでした。ラジオ放送の講義でしたが、手元にしっかりとした教本がありますから何度も読み直すことが出来ました。無理のないペースでと二教科だけでスタートした第二の大学生活でした。

サークル活動は欲張って英語の「うえるかむ」をはじめ「中国語学習会」「神奈川合唱団」にも入会しました。どのサークル活動も、質の高い指導者と熱心な学生で活気に満ちていました。その上会費は負担の少ない額でした。二年を経て英語と中国語は退部しましたが、合唱団の方は今も続けています。学位記授与式の際にNHKホールで歌う「学歌」、入学式の際に神奈川学習センターで歌う「学歌」と「練習歌」など、いつも気持ちに張りを持つことが出来ます。

平成24年には「食と健康アドバイザー」の認証を得ました。また、選科生として席を置いてきましたが、二年前に全科生に変更し、この度卒業を迎えることが出来ました。

ページをめくりながら科目を選ぶ楽しさ、自分のペースで学べる便利さ、卒業後も継続入学が出来る嬉しさ、おそらく私は健康である限り、「知ることの喜び」に支えられて、神奈川学習センターに通い続けることでしょう。

良い機会に恵まれ幸せを感じています。

名誉学生の言葉

名誉学生の表彰を受けて

古本教子



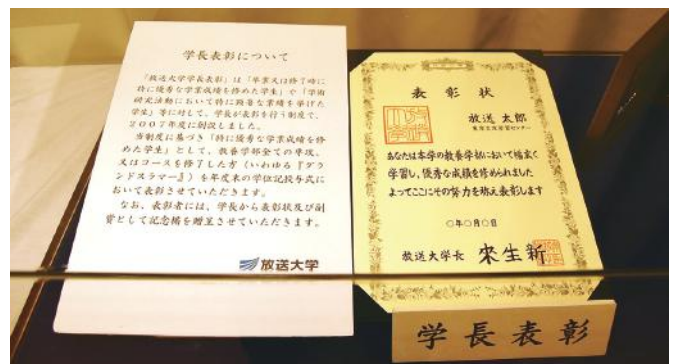
私は2018年3月24日、NHKホールで行われた放送大学学位記授与式において名誉学生表彰状と盾を戴き感激しております。2001年4月入学ですが、入学動機は学習塾をやっていたもので、子供さんや親御さんと面談することが多々ありました。指導の場面や面談の場面で、うまく気持ちをわかってあげたいと思っていました。そこで教育、心理関係の学習を受講しました。

入学式に参列し、その帰りにサークルの勧誘を受け、そのまま入部し現在まで続けています。今まで学習を続けられたのはサークルのいろいろな人と友達になり、楽しい行事などを通して互いに励まし合ってよい関係を築けたからと思っています。

しかし仕事と家庭の両立はかなり苦戦しました。勉強時間は早朝3時から6時と決めていました。また5分、10分の時間もテキストを読み、時間の使い方が上手になりました。

初めて卒業式に出席したとき、80歳台の女性が名誉学生で表彰されました。その時突然自分も全コースを卒業したいと思ってしまいました。これがいかに無謀なことか、あとから知ることになりました。理系の科目は苦手なため苦勞し、情報の科目は最新の学問なので、初めて聴く専門用語に苦勞しました。面接授業では未来の技術や進歩を垣間見ることが出来、どきどきわくわくの授業で今では楽しい思い出です。

これからは放送大学の卒業生であることに誇りをもって、何事にも前向きに挑戦したいと思います。



名誉学生の言葉

「名誉学生」称号の付与を受けて

寺村紀美夫



2018年3月15日付にて放送大学学長より「放送大学名誉学生」の称号を付与する旨の通知を受けました。その後3月24日NHKホールの学位記授与式にて「表彰状」と「記念楯」を拝受しました。

入学当初は卒業を目的とせずのんびり選科生として一期毎に1科目のみの勉強で2年間過ごしました。その間にサークル活動の仲間から全科生で卒業を目指すように指導を受け、さらにはそのサークルの元会長が全コースを卒業されたことも刺激となり、私も全コース卒業を目指すことにしました。

卒業のコースは①2005年9月「生活と福祉」②2007年9月「社会と経済」③2009年9月「産業と技術」④2012年3月「人間と文化」⑤2014年3月「心理と教育」⑥2016年3月「自然と環境」⑦2018年3月「情報」と7コースの卒業です。

皆さまの参考になるか分かりませんが私の勉強方法を紹介します。①TV科目は1枚のブルーレイに15章全てを録画して、何時でも勉強可能とした。②ラジオ科目は胸ポケットに入るICレコーダに録音し徒歩や電車中でも勉強可能とした。これだと大変勉強したように思われますが実際には単位認定試験直前になってからあわてて勉強していたに過ぎません。



1回目の卒業と同時に同窓会へ入会し微力ながら役員として活動し現在に至っています。これからも皆様と共に同窓会をさらに発展させていきたいと思っています。

これからは入学当初と同様に生涯学習として一期毎に1科目のみをのんびり勉強したいと思います。

名誉学生の言葉

グランドスラムを達成して

高橋照夫



2004年後期に放送大学に入学し、この2018年3月に教養学部6コースを終了しました。

入学にあたり、何から始めようかと迷いましたが、これから20年は身を置くであろう少子高齢社会の福祉、社会保障、医療などがどのような仕組みなのかを学ぼうと「生活と福祉」を選びました。

3年次に編入しましたので、2年間での卒業にも挑戦してみましたが、64科目の専門科目の単位取得は少々ハードでした。2コース目からは、多少要領がわかったので「心理と教育」、間に修士課程をはさみ、「社会と産業」、「自然と環境」、「人間と文化」、最後は開設が遅かった「情報」でした。

一番面白かったのは「人間と文化」で、我が国や欧米の歴史、日本の古典文学、美術とこれぞ放送大学の教養学部にも最もふさわしいコースと納得できました。自然科学系は得意ではありませんでしたが、宇宙関連の知的領域の広がり、分子生物学、ゲノムといった新たな知見に満ちた生物など、驚かされました。

パソコンは身近な学習のための一つのツールですが「Word」「Excel」といったソフトウェアは理解できてきましたが、ハードウェアとしてのコンピューターはまさしくブラックボックスでした。「情報」は、私にとっては難解な科目が多かったので、ブラックボックスの外側の壁をなぞり、感触を味わう程度ではありましたが、いい体験となりました。

放送大学は生涯学習という側面において国内のトップランナーであると思いますが、13年半にわたって継続できたのは、1コース目を終えて入会した神奈川同窓会で、現役の時に専門分野の第一線で活躍された方々や仕事と並行して学びを継続されている会員の皆様から、有形、無形の刺激に後押しされたことに尽きると思います。

今回で一区切りつきましたが、今しばらくは放送大学で学ぶ人々の中で何らかのかかわりを持ってゆきたいと考えております。

卒業生ショートメッセージ

◆横浜市 十亀 洋：1985年に選科履修生として入学しましたが、在職中は空回り続きでした。退職のあと6年がかりで「心理と教育」コースを卒業でき、「社会と産業」コースに再入学しました。必要性を感じると続けられるものですね。

◆海老名市 宍戸修一：会社勤めを終え、仕事の中で抱いた疑問解決への挑戦と、深く本質に迫りたいとの思いから入学しました。幸いにも愉快的仲間と知り合い激励され、あっという間に卒業を迎えることができました。初心はほぼ達成。支えて頂いた皆様に感謝しています。

◆藤沢市 松田江利子：放送大学「人間と文化」コースにて勉学に励んできましたが、知らないことが多く、知識を存分に得ることができました。現在、科学の散歩道ゼミに参加していますが、これも楽しく皆さんのお話を拝聴しています。大学院選科履修生として、更に頑張りたいと思っています。

◆厚木市 田嶋順子：長く長く長い道のりでした。やっと卒業できました。友人に“おめでとう”と言われて、とてもうれしかった。そして、NHKホールに多くの学友がいらっしやったこと、あらためて感謝の気持ちで、いっぱいでした。



会員投稿

面接授業「熊野の古式捕鯨」に参加して

小林 光 (ひかる)



昨年12月9日～10日、和歌山学習センターの標記面接授業に参加しました。講師は、地元大地町歴史資料室の学芸員である櫻井敬人先生でした。先生は、米国のクジラ博物館2館に勤務された

経験を持ち、クジラに関する数少ない専門家です。

9日は、いさなの宿「白鯨」に集合、近くにあるくじらの博物館から大地町内巡り、古式捕鯨に関する巡検・座学を受けました。博物館では、鯨の体表油のみを目的とした米国捕鯨と異なり、クジラと結びついた地域文化、鯨肉、鯨のヒゲ・骨など全てを活用し、さらに供養してきた捕鯨を学びました。その後、懇親会を兼ねた夕食会がありました。

10日は、バスで阿弥陀寺、那智大社・青岸渡寺、補陀洛山寺を廻り、広い太平洋を望みながら、三輪崎・大地・古座3組による古式捕鯨を体感しました。さらに、鯨発見の狼煙を上げた燈明崎、梶取崎のクジラ供養碑を巡検しました。古式捕鯨では、15～20名が乗込んだ約20槽の鯨舟に、総勢300～500名の漁師組(団)が参加し、巨大な鯨を目指しました。

この講座に参加しようと思ったのは、数年前に見た映画「ビハインド・ザ・コーブ」です。この映画は、今年2月、ロンドン国際映画制作者祭で最優秀監督賞を受賞した八木景子監督が作成しました。反捕鯨団体の映画「ザ・コーブ」に反論し、日本食文化を紹介したものです。クジラの博物館では、イルカを生育し、国内・外の水族館にイルカを提供してきました。イルカにとって、よりよい環境で育て、芸を仕込み、各地へ提供する、地域自然を活かした地域産業となっていました。しかし、世界動物園水族館協会による圧力で、大地町は危機に直面しています。鯨と共に生きた文化を、大事にしたいと思います。



会員投稿

学ぶは醍醐味

中島悦子



様々な家事から解放されて自分のための時間がもてたのは、60代になってからでした。これからの人生をどのように使おうかと暫く悩みましたが、まずは健康の維持をと考えスポーツクラブに入会しました。

楽しい数年が過ぎましたが何かひとつ物足りなさを感じるようになり思い切って放送大学で学ぶことを決めました。今更できるかなと思いましたが、とにかく始めてみようと思ひし生涯学習元年を迎えることになりました。

読書は文学系が多かったのですが、まず「人間と文化」を選びましたが、科目、分野が余りにも多種多様なことに驚きました。歴史書で言えば通読だけでなく様々な視点からの分析、比較などがあり今までの自分の読書の仕方では十分に本質を理解できていなかったことに気付かされました。各コースとも意外な科目構成があり選ぶのも楽しみの一つです。

「人間と文化」「生活と福祉」を終了し、現在は「心理と教育」に挑戦しています。学ぶたびに新しい知識が増えることで自分の世界がどんどん広がってゆくのです。それは思いの外素晴らしい喜びでした。

また面接授業では違う世代の方たちから新鮮な刺激を受けることができます。レポート提出やテストのあとの開放感、達成感もなかなかいいものです。生涯学習の醍醐味でしょうか。そのうち学ぶことが自分の心の成長に繋がってゆくことにも気がきました。嬉しい副産物です。

放送大学で自分の能力の伸び代を信じて学び、そのためにも必要な体力維持のために、今のスポーツも続け心身ともにバランスを大切にしながら日々を過ごしたいと思ひます。そしてできることならば、いつの日か何らかの形で学んだ事柄が地域社会に還元できたらと考えています。

なお、この度同窓会活動に携わることになりました。微力ながら皆様のお役に立てればと思ひます。

弘明寺サロン・レポート

●第58回 2017年12月9日(土)

客員教授特別講演会：講師 角 洋一教授

演題：「東京湾、海難への備え、そして海と船の文化」

第58回は恒例の忘年会と併催で開催しました。

先生から頂いた講演概要を転載いたします。

概要：神奈川県東京湾沿岸は、幕末から昭和にかけて1世紀以上にわたり港湾と重工業地帯として発展してきたが、21世紀に入り顕在化してきた産業構造の変化や少子高齢化などの社会構造の変化とともにその在り様も変化を迫られている。

本講演では、放送大学神奈川学習センター(横浜)における面接授業「海事産業と神奈川」との関係も踏まえ、港湾都市横浜の役割、東京湾の海上交通の安全、事故時の海洋環境保全の方策について現状を分析するとともに基本的にグローバルな産業である海運・造船について、神奈川という地域的視点とグローバルな産業構造の視点を交えながら展望する。

また、横浜とその周辺には、「横浜みなと博物館」、**「日本郵船歴史博物館」**などの海事博物館や初代帆船「日本丸」、日本郵船「氷川丸」、記念艦「三笠」、北朝鮮「工作船」などの保存船のような海と船に関わる施設が集積しており、その文化的意義についても触れることとしたい。



講演はⅠ部：神奈川の産業と港湾物流とⅡ部：東京湾の会場交通と安全の二部構成でしたが、特にⅡ部では、東京湾の三浦半島側の大型船の往来を航跡図で説明を受けましたが、あまりの稠密さに愕然としました。

さらに海難事故についての2件の事例について解説いただきましたが、先生のご専門である「船舶海洋工学」「破壊の数理」の見地からのご説明は大変興味深いものがありました。

●第59回 2018年2月10日(土)

第11回映画上映会「細雪」

映画研究同好会の映画上映会と併催で行い、50数名の方が鑑賞されました。また上映後の懇親会にも多数ご参加頂きました。(高橋照夫)

社会貢献活動（あしなが育英会）

神奈川同窓会では放送大学叢書の販売利益金全額をあしなが育英会に寄付しています。2017年は94冊を販売し、本年3月に43,886円を送金いたしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

放送大学叢書はすでに40冊を超えるラインナップとなり、大変読み応えがあります。ぜひお手にとっていただければと思います。

最近発売になりましたタイトルをご紹介します。（田代和嘉）
☆林泰成『**道德教育の方法 理論と実践**』

☆大沢真知子『**21世紀の女性と仕事**』

☆中川清『**近現代日本の生活経験**』



会員投稿写真



「ランズエンド=Land's End Landmark=地の果て」

英国南西部、大西洋に突出する岬コーンウォール半島の最西端、花崗岩の急崖は高さ20m。 柿崎よし子

お願い

住居移転のあった方は、葉書またはURL <http://hatoh.net/> の「入会案内欄」にて連絡をお願いいたします。また例年総会案内と共に年会費「払込取扱票」を同封しておりますので未納入の方はご協力をお願いいたします。

口座名 神奈川同窓会

口座記号番号 00250-4-□□16183 (右詰め)

年会費 1,000円 (送料はご負担願います)

お問い合わせ 金田保男 Tel. 045-333-4426

E-mail yasuo-kaneta-626531@hotmail.co.jp

第12回映画上映会のお知らせ

映画タイトル:「**禁じられた遊び**」

日時: 2018年8月23日(木) 13:30~16:30

会場: 神奈川学習センター第8講義室

解説: フランス映画、戦争孤児になった少女と農家の少年の純心な交情を描くフランソワ・ボワイエの原作小説を映画化。この作品は52年のヴェニス映画祭のグランプリとアカデミー外国映画賞を受賞。

ストーリー: 1940年6月のフランス。パリは独軍の手に落ち、田舎道を南へ急ぐ難民の群にもナチの爆撃機は襲いかかって来た。五歳の少女ポーレットは、機銃掃射に両親を奪われ、彼女は難民の列からはなれてさ迷ううち、農家の少年ミシェルに出会い二人の遊びが繰り広がる。(寺村紀美夫)



事務局だより

『波濤』54号(平成30年1月13日発行)に掲載以降の新入会者は下記の通り29名です。心より歓迎申し上げます。(敬称略)

新井健治	横山政明	樋口勝美	木戸光
山形達也	西名俊英	古藤美津子	高梨美恵
前原俊浩	栗田重和	松田江利子	十亀洋
矢崎文彦	大岩丈晴	梅島恵子	滝島大介
木暮健児	小菅象一郎	鈴木裕子	宍戸修一
桑原昭夫	浜地幸夫	松田美代子	阿部徹
岩下勝典	桑名克己	鈴木富美江	田村弘揮
田島順子	(平成30年4月1日現在の会員数605名)		

神奈川学習センター「名誉学生」のお知らせ

古本教子様、石井一郎様、宍戸修一様
高橋照夫様、寺村紀美夫様、桑原昭夫様

訃報

吉木靖治様 福田繁行様
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

お知らせ

本号より編集委員長は佐藤 敬に交代致しました。